

ノンプリズムTS

出来形管理手引を策定

関東整備局 使用範囲、注意点など明記

関東地方整備局は、情報化施工で使う測量機器であるトータルステーション(TS)のうち、レーザー光の乱反射を利用して測量するノンプリズム方式のTSの出来形管理に関する手引を策定し、同局発注の舗装工事を対象に運用を始めた。手引には、反射板にレーザー光を照射して測量する通常のプリズム方式のTSとは異なる出来形管理の使用範囲(30m以内など)や注意点を明記した。ノンプリズム方式のTSは公共工事の現場では利用実績が少ない。今回の手引策定により同整備局は施工者に安心して活用してもらい、普及を後押しする考えだ。

プリズム方式は、計測の設置による通行規制を伴わずに測量を行えるメソッドもあり、関東整備局は舗装工事での利用を検討してきた。今回の手引では、ノンプリズム方式TSで計測可能な範囲を半径約30m以内に設定。これ以上範囲を広げると計測対象となる路面への光の入射角度が小さくなりすぎ、計測値の誤差が大きくなる点を考慮した。測定対象の項目は基準高、厚さ、延長、幅など各項目のうち基準高と厚さの二つとした。

さらにノンプリズム方式TSの使用を希望する施工者は、現場でプリズム方式TSとの計測値の比較を行い、誤差が基準内に収まっているかを確認し、その結果を所定のチェックシートに記入して監督職員に提出するという手順を取る。

国土交通省は、施工現場の作業効率化を図るため、13年度から1万立方メートル以上の直轄土木工事を対象にTSによる出来形管理の使用を原則化するよう各地方整備局に求めた。関東整備局によると、プリズム方式を前提にしたTSの出来形管理要領はすべての地方整備局で策定済みだが、ノンプリ

ズム方式は、計測の設置による通行規制を伴わずに測量を行えるメソッドもあり、関東整備局は舗装工事での利用を検討してきた。今回の手引では、ノンプリズム方式TSで計測可能な範囲を半径約30m以内に設定。これ以上範囲を広げると計測対象となる路面への光の入射角度が小さくなりすぎ、計測値の誤差が大きくなる点を考慮した。測定対象の項目は基準高、厚さ、延長、幅など各項目のうち基準高と厚さの二つとした。

さらにノンプリズム方式TSの使用を希望する

【建設ICT】

- | | | | |
|----------|--------|--------|-------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 | 4. 日経 |
| 4. 読売 | 5. 朝日 | 6. 毎日 | 5. 朝日 |
| 7. 産経 | 8. 朝日 | 9. 毎日 | 6. 毎日 |
| 10. 中部経済 | 11. 朝日 | 12. 毎日 | 7. 毎日 |
| 13. 建設通信 | 12. 朝日 | 13. 毎日 | 8. 毎日 |
| 14. 建設工業 | 13. 朝日 | 14. 毎日 | 9. 毎日 |

平成25年4月25日(朝)・夕) P 5